

被災地支援 在り方探る

岡山

県立大、AMDAセミナー

近い将来、南海・東南海地震の発生が予測される中、市民対象のセミナーが十七日、岡山市奉還町の岡山国際交流センターで開かれ、災害時の支援体制の在り方について理解を深めた。



今年三月まで十七年間、厚生労働省で災害支

援対策に携わった岡山大学院医歯薬学総合研究

ムなども確立すべき」と訴えた。

科の土居弘幸教授は、大地震を想定した支援体制について講演。市町村が、救護所などのボランティアスタッフの適切な人員配置を事前に決めておく必要性を強調した

新潟県中越沖地震の被災地で救援活動を行ったAMDA調整員の佐伯美苗さん(三十八)は、支援する側の課題として「住民に自分たちをいかに信頼してもらおうか、施設などで短期スタッフとして働く

上で、「スタッフを効率的に受け入れたり、ジェット機などで患者を広域搬送するシステム

災害時の支援体制の在り方について考えたセミナー

(水嶋佑香)

県立大学院(総社市窪木)と国際医療ボランティアAMDA(本部・岡山市櫛津)が開催し、今年で四回目。市民ら約百人が参加した。